

三浦の地名はどこから ???

みなさんは、「地名」に目を向けたことがありますか？ 旅行に行った時に自分の町と同じ地名や、自分の名前と同じ地名を見たことはありませんか？

「地名」というのは、まず初めに誰かが小さな土地に名前をつけ、それが一般的に受け入れられていくと正式な地名として残っていくようです。つまり、「地名」は人間の生活の中から生まれたもので、そこには歴史を知る貴重な手がかりが眠っていると言えます。

では、私たちが住んでいる『三浦市』には、どんな地名があって、そこにはどんな歴史があるのでしょうか？ そのいくつかを紹介します。

そもそも『三浦』という名前はどこからきているのでしょうか ???

「三」という数字が何か関係しているのでしょうか？ だとすると「浦」は？

「三浦」という地名は、『日本書紀』の中に、「御浦^{みうら}」という表記で登場しています。1300年も前から「みうら」という地名は存在するようです。

また、地図で「三浦半島」を見てみると、東・西・南の三方が海（浦）に面していることが分かります。ここから「三浦」と呼ぶようになったという説もあります。このように「地名」には、歴史や地理と大きな関わりがあるようですね。

初声^{はつせ}地区

『初声』 読みが難しいこの地名由来は ???

この地名は和田義盛が平氏を追討した後、凱旋^{がいせん}のために「初声」という歌曲を作ったという伝説にちなんでいるようです。また初声^{はつせ}にある「矢作」には和田義盛がここで矢を作らせたという言い伝えがあります。

『三戸』 数字の意味は???

「御精霊流し」で有名な三戸という地名は、数字の「三」があるように、内田太郎、庄司次郎、海戸五郎、という三人の人物がこの土地を分け合っていたことに、ちなんでいるそうです。また、ここに三浦一族ゆかりの三戸友澄という武士がいたという説もあります。

南下浦地区

『菊名』 ここは菊に関係あるのか???

ここは、戦国時代に三浦一族の家臣として活躍した菊名左衛門重氏が持っていた土地だと言われています。しかし、人物の名前が土地の名前になったのか、土地の名前が人物の名前になったのか、どちらが先かは謎のままです。

『劔崎』 龍神が暴れたこの地は...

浦賀水道に面するこの岬の名前の由来は江戸時代にさかのぼります。ここでは、幕府の木材を積んだ船が暴風雨で沈んでしまった時に、これは龍神の怒りだと考えた海南神社の

神主が劔を海に投げ入れたところ、暴風雨がおさまったという伝説が残っています。

上原地区

『諸磯』 磯という字から想像すると...

この地名は、海岸に多くの(諸々の)磯があることからつけつけられたと言われています。しかし、昔は「諸石」という表記で書物には残っています。地名には今と昔で、微妙に漢字や発音が違うことがあるようです。

『小網代』 同じ名前が対岸にも。

古くは網代^{あじろ}と呼ばれていたそうです。網代とは網を入れる場所のことで漁場という意味があります。海を隔^{へだ}てた先の静岡県の伊豆に網代という地名があり、その網代と区別するために「小」の字をつけて小網代になったと言われています。

三崎地区

『城ヶ島』 「城」は「尉^{じょう}」???

「城」という字から想像するに、ここには城があったのでしょうか？戦国時代、安房^{あわ}国の里見氏がここに城を築いたという説がありますが、もう一つ昔の官職で「尉(じょう)」というものがありました。この尉が三崎にいて「尉がいる島」「尉が島」となったという説もあります。このように、昔と違った漢字が使われている例もたくさんあります。

『盗人狩^{ぬすつとがり}』 かなり珍しい地名。

毘沙門湾^{びしゃもんわん}を三崎方向に歩いていくとV字型の断崖^{だんがい}があり、ここを「盗人狩」と言います。地名に泥棒を意味する「盗人」という言葉が入るなんて、かなり珍しい地名ですが、その昔、追われた盗賊がこの断崖の端まできて下を見ると、そそり立つ絶壁^{ぜつぺき}と逆巻^{さかま}く波に思わず足がすくんで動けなくなり、簡単に捕まってしまったということから、この地名がついたそうです。

【出典及び参考文献】

- 『大日本地名辞書 第六巻』 吉田東伍 1970
- 『日本歴史地名大系 第一四巻 神奈川県地名』 平凡社 1984
- 『角川日本地名大辞典 14 神奈川県』 角川書店 1984
- 『鎌倉・三浦半島 おもしろ地名考』 三浦一男 1997